



ルンペン雑考 (三)

郡昇作

結果から観たルンペン 其六

- 一、性慾
- 二、道徳
- 三、宗教
- 四、貧しき者の清き心

一、性慾

會ふ人毎にルンペンの性慾處理法如何?と問はれ答に窮して居ると「自濱行爲で満足してゐるのでせう!」と疊み掛けられて面喰ふことが多いのです。金の無い彼氏達のことだから最も安價な方法を探るであらうと御考へになられる方の多いのは無理のないことゝ存じます。自濱行爲は秘密行爲だから有るとも無いとも答

に再び窮しますが、彼氏達の金の無い時は飲食時であるから、性慾飲亡時代であると考へます。酒呑は女より酒と申します。少しでも金が手に入ると直に泡盛屋へ走ります。それと同様に生活に少しでも餘裕が出来ると女を戀ふ心が湧くものがあると思はれてなりませぬ。

夏になると飛田や松島の遊廓へ行く豪の者も出て参ります。五十錢か壹圓の浴衣を一枚古着屋から買つて來て堂々と乗り込んで行きます。寒い冬はそは參りませぬが、暑い夏はどの方面から觀てもルンペンの天下です。衣類は要らぬし、家は要らぬし、食物は腐敗し易いからいくらでも無料で惠まれます。ビラ撒きや人夫に出て儲けた金は丸残りです。此の金で淫賣買や男娼買ひにかけます。

保護所風呂淫賣式あとがせく

只の餅與へて貰ふ横根かな

買う程の無いものは「あをた」や「落ちもの拾ひー」に出来ます。「あをた」のときは淫賣婦は「泥棒!」と聲をあげることがあります。

男娼と一度遊んだものは娼婦とは遊びませぬ。男娼や淫賣婦の中にはルンペンの見張番を附けて居るものがあります。

神戸灘區船寺通四丁目カフエ僕の家の女給富士川貞代(一九)を相手にして飲むでゐた葺合區琴緒町二岩城純吉(三二)は酒が廻るに従つてモヤ〜妖しい氣分になり、手の切れる様な二十圓札を見せびらかして貞代を口説いた末ヤツト二階でモノにしたが、男はそのまま金を與へず逃げ出したので、貞代が泥棒〜と追つかれた所から警官が出張しこの經緯が判明、サテ女を密淫で處分したものか、男を詐欺罪で處分にしたものか頭をヒネつてゐる。(昭一二、一二、一日夕刊大阪新聞)

此處で二三の變つた話を申し上げて次に淫賣婦と男娼の新聞記事を掲げて報告に代へさせて戴きます。

亭主が密淫の見張り

(81)

Sは京都で銀行の小使を十數年間もして小金を千圓近く溜めたので退職して退職金と合した二千圓程の金で紙商を始めましたが一年半程して元も子も無くしてしまひルンペンに顛落してしまひました。それで大阪へ来てルンペン宿に泊つて人夫をしながら妻

不具の夫婦

A組の夫は二十五歳で脊椎病の爲に猪首であり、兩足を電車で失つた不具者であるが、之に配する妻は六十八歳の老婆で、梅毒と營養不良とトラホームの爲に殆んど失明した、然も神經痛の爲に兩足不隨のひからびた不具者でした。二人が一心寺で乞食中に知り合つて同じ様な境遇から甘い戀が生れたのでした。夫が他の男と喧嘩したときには如何に二人の間が濃やかであるかを周囲のものが知つて驚いたのでした。目の見えない妻の加勢は實に花々しいものでした。

娘を呉れてやる男

Nが死ぬ前日知り合の老人を呼んで「俺が死んだらお前に娘を

呉れてやるから頼むぞ」と言ひました。だから葬式を済ませたその夜旦はNの妻を連れて歸つて「お前は今夜から己の娘だぞ」と申し渡しました。旦は六十三歳で、妻は三十一歳でした。その後六ヶ月程して二人は喧嘩を致しました。妻は下駄を夫は巻を振り上げました。「出て行け!」と夫は怒鳴りました。妻は自分の持物を荷造にかかりました。夫は「お前のものは全部」が拵へてやつたのだ、一つもやること出来ん。そのまま「出て行け」と申しました。妻は着のみ着のまゝ子供の手を取つて出て行きました。

B 淫賣

淫賣婦には可愛そな同情す可き點もあると思ひます。生來の淫奔よりも生活難と無智が彼女に正しからぬことをさせることができ、彼女達よりも彼女達に依つて生計を立てゝ居るもの方により悪いものがあるのではないかと考へます。筆者は淫賣婦を使用したことがあるが、決して、生活の出来る間は、賣淫を致しませんでした。彼女達には無暗にかたいところがあるのです。

亭主の見張りで

女房、春を賣る

失業が生んだ悲劇

二十六日朝曾根崎署の刑事室内で取調の係官の前で「實は失業の痛手から生活難に迫はれ據るなく妻の貞操で稼ぎ今日まで生活

を支へて來た」と告白してゐる夫婦者があつた。右は北區鬼我町松田節治(三六)及同人妻初子(二九)と、松田は四年前某生命保険の外交員を失職したので、自ら舞台の上妻に客をとらせ自分は見張役を勤めてゐたのであるがその間初子が胤の判らぬ他人の子を三人産んだので、何れも新聞廣告で血統正しき某資産家の落胤だと稱して貴子にやりましたと自供したが、舞台中を兩人とも檢舉されたもので尙嚴重取調中である。

(昭一二、六、二七夕刊大阪)

轉落した重役夫人

盛り場で行人の袖を引く

十九日午後十一時半頃東京坂本署保安係では下谷區坂本町四の船員辻浦欣一(三九)の妾橋本八重方へ乗り込み同家雇人上宮とみ(三三)を檢舉したが、とみは同夜九時頃淺草松竹座裏で會社員柴野某を拾つて嘲へ込んだもので、とみは元某重役夫人、四年前に夫に死別して生活に困る處から八重方で肉の切賣りをして居ると言つて居り、一見大家の若奥様風である。

(昭一二、二、二二大阪日日)

二児を抱へた寡婦の淫賣

金貳圓也の春を描く

安宿の一室から警察送り

三日午後十時半戎署防犯係が浪速區水崎町文屋旅館を臨檢する

と中年の男女一組がエロ模様を描いてゐたので取調べたところ、女は西成區長橋通三丁目有河とめ(三二)以下いづれも假名と云ひ、昨年夫に死別れ二人の子供を抱へて生活に窮したため最近新世界に出没して春を賣つてゐたもので、同夜九時頃通天閣下で東成區中川町會社員吉田鶴之助(四一)と二圓で約束が成立し前記旅館にしけ込んだものと判明した。(昭一二、一一、五大阪日日)

天王寺公園の

淫賣狩り

二十數組を檢擧

二十四日午後九時頃戎署では防犯係を總動員して新世界、天王寺公園一帯に亘る闇の花狩を行つたところ、新世界大山館の横で繪模様を展開してゐた、住所不定西村春江(三七)の外、公園の暗闇、映畫館の横手、建物内の空地、青天井の下で痴態を盡してゐた男女二十數組を發見檢擧した。(昭一二、九、二六大阪日日)

兩腕の無い

婆ア淫賣

戎署に檢擧さる

(83) 十八月午前零時半頃浪速區霞町一第三玉置屋旅館を戎署員が臨檢した處、年輩の男女が同衾してゐたので取調べた處、女は西成區東入船町三六渡邊かよ(四四)といふ淫賣で二圓の情約金で東成

の男女にはチットも聞えなかつたものである。

(昭一二、一一、二六大阪日日)

閻の女の嘆き

口ハ食ひで突出さる

二十三日午前三時ごろ西區松島二丁目飲食店京川常吉方で飲酒

してゐた粹な姫さんが、二圓餘の勘定になると文なしとわかり九條署に突き出されたが、同女は住吉宮濱口町山本ねい子(二七)とて今宮方面で好色の男を漁る間の女だが、前夜初めて九條方面で客を喰へんと前記京川方に腰をすへてよい鴨がなと物色してゐたが、そのうち雨になつて客足も杜絶へ、折角客をとつてから支拂はうと思つてゐた勘定もスツカリ當てはづれで支拂へず、斯くは突き出されたもの。(昭一三、三、二三夕刊大阪)

淫賣アパートに

時ならぬ大嵐

二十數名検舉、留置場は超満員

C 男 媚

四十二年間女装 元俳優の變態爺さん 新世界でカモを漁る

暗夜に咲く花の大量検舉によつて留置場が満員となり一時取調べを休止せねばならんといふ稀有話題が生れた。天王寺署ではかねて同署管内に大々的根城を構へて市内外各方面に出没して居る大密室團のあることを探知捜査に努めてゐたが、この程同署防犯係太田、平畑兩刑事が、天王寺區寺田町三和銀行裏山本みき(三八)を襲ひ、同人及び中田セリ子(一九)稻村菊子(二〇)野村たみ子(二〇)各れも假名を連行取調べた結果、右山本は市内各魔窟に女を供給する本元であつて、前記の三名も淫賣常習者であるが、その他に山本は東成區北生野町一丁目の十三軒長屋で一軒置

きに六軒を借り受け一軒毎に三四名の女を住ませ、各責任者を定め、電話一本を引いて宛らアパート式淫賣寄宿舎を設けて各方面と連絡してゐたことを自供したので右の長屋を襲ひ女十七名、ボン引十名を検挙したもので、その遊客の中、金のありそな男には女を客の勤務先その他に訪問せしめるなど巧妙なる客引戰術を用ひ某電鐵重役など知名の男と取引を結んで居り一夜七八十圓に達してゐることが判明して流石の署員を驚かしてゐる。尙阿部野橋附近の某醫師は最初に遊んだ時警察官と見誤られて以後數回只遊びしてゐたなどの餘話も多數織り込まれてゐた。

(昭一三、四、二大阪日日)

雜考 ペンブル

暗夜に咲く花の大量検舉によつて留置場が満員となり一時取調べを休止せねばならんといふ稀有話題が生れた。天王寺署ではかねて同署管内に大々的根城を構へて市内外各方面に出没して居る大密室團のあることを探知捜査に努めてゐたが、この程同署防犯

廿四日午後九時頃新世界、世界座の便所前で若い男に對手になつてゐる小意氣な老婆を戎署員が怪しみ連行した。右は北區天神橋筋六丁目、某めし屋の雇女山本まさ子(五八)と稱してゐたが留置すべく服装を改めさせたところ意外にも男であつたので大に驚き取調べると静岡縣生れ櫻木清こと、山本政雄(五八)と云ふ元地方廻り劇團の女形で、十六歳より女装して四十數年間暮してゐた

辯がとれず寄る年波で女丸を廢業してからも變態症狀は益々濃厚となり市内各所のめし屋で雇女を働き乍ら盛り場で男を求めてゐたことが判明したが、四十二年間を通じて男であることを見破られたのは今度が初めてであると言つてゐた。

(昭一三、四、二六大阪日日)

丸髻、束髪の男娼連

尻を捲つて賭博
五名戎署に検舉さる

一日午後十一時頃天王寺區逢坂下之町法界屋小林佐吉(三七)方で賭博を開帳してゐることを探知した戎署員が踏込んで見ると、佐吉始め丸髻一人束髪三名がおいどをまくり物凄い姿でオチと稱する賭博に熱中してゐたので逮捕連行取調べると、女に見えは何れも今宮の男娼で西成區東入船町山内政雄(二八)外三名と判明した。(昭一二、一二、二大阪日日)

凄い居直り男娼

相手を殴つて葵口強奪

十日午後十一時頃北區野崎町紙工職中岡好一(三六)假名が

勤務先からの歸途、扇町公園を通り抜けんとしたが途中で小用をもよほし同公園内共同便所内に入らんとしたところ、年齢二十五六歳位の黒ジャンバー中折帽の男が、盛んに自瀆行為にふけつて

ウインクする女

意外や女装の男!

れつきとした妻を持ち乍ら獵奇を追ふ變態男

三十日午後九時ごろ西區京町堀通一丁目街路でケバくしく着飾つた妙齡の婦人が、男とみれば片つ端からモーションを送つてゐるのを川口署員が發見、本署に連行取調べて見ると之は又女装の男子で市内某會社員東淀川區長柄通三丁目大野梅次郎(三二)!!

假名^二といふ家庭にはれつきとした妻女がありながら生來の變質が昂じて、遂に妻の派手な衣裳を着込んで厚化粧よろしく街頭に進出し獵奇男の袖を引つ張つてゐたものと判り、こんこんと説諭の上引取らせた。(昭一三、三、三一夕刊大阪)

砂風呂は妖笑す

映畫館に男女の痴態

戎署の一齊臨檢

六日夜、戎署防犯係では新世界盛場に一齊臨檢を行つた結果ラヂウム温泉の砂風呂で濛々湯氣の立る中に數名の男が恍惚と同性遊戲に耽つてゐるのを見發見取調べると右は豊能郡豊津村宇樟井和田米吉(四二)他七名で、何れも變態性の男と判つたが、更に九時頃満員の新世界公樂座二階後方で若い男女が薄闇の中頻りに抱擁を續け怪しい振舞に及んでゐるのを見發見、この圖々しい若者は此花區大開町大開アパート止宿松野春雄(二二)同町ヤヨヒ喫茶店女給大成春枝(二二)の兩名と判り嚴戒の上引取らせた。(昭一二、六、七夕刊大阪)

小遣を與へて

美少年を弄ぶ

旅館の一室でグロ遊戲

變態親爺にお繩かゝる

十三日午後八時頃西之池町某旅館に旦那風の中年男が美少

親達を呼出して引渡した。(昭一二、一〇、八夕刊大阪)

こりや驚いた

紳士ばかりの變態グループ

日時を定めてグロ的享樂

賭博と思つて警官踏込む

阿部野署部内住吉區阿部野筋三四宮元一郎(四九)^二以下何れも假名^二方へ毎夜の如く數人の紳士が出入するので紳士賭博でないかと内偵中、昨二十五日夜も多數の紳士が同家に入つたので十一時頃踏込むと紳士賭博にあらず、四組の男が薄寒いのに全裸となりみるにたへない、グロテスクな場面を展開してゐるので本署に連行した、右は府下泉州北松尾村歯科醫有山康太郎(三五)東區玉造町貴金屬商鶴田龜吉(二二)東京市豊島區小間物町一、三品取引所員吉岡政夫(三〇)名古屋市西區筒井通醫師篠川繁夫(二九)外四名で、同人等は相當な社會的地位にありながら變態グループを作り日時を定めて四宮方に集合グロ的享樂にひたつてゐたもので大目玉の末引取らせた。(昭一二、一〇、二七大阪日日)

髪を切られて

私困るね

變態の繁ちやん

十五日午前一時頃京阪四條停留所で大阪行最終電車を待合せて

年を連れて投宿せる舉動を怪しみ臨檢の今宮署員が取調べると、東區南本町四丁目吳服商中西宗之助(四三)^二假名^二で同人は去る十日西區阿波座中通一丁目洋家具商大塚某方に雇はれ中、職を據つて家出した同店員豊田一郎(一八)^二假名^二と天王寺公園で顔を見知り以來中西は少年に小遣を與へて同旅館に止宿させ毎夜已れの變態性慾を満すため可憐な少年を弄んでゐたこと判明、中西は拘留に付し少年は保護の上雇主に引渡した。

下宿屋の二階は秘密男娼クラブ(昭一二、六、一四夕刊大阪)

少年を嘲へ込んで變態繪巻

元女形俳優が牛耳る

八日前一時頃住吉區山王町二丁目下宿業西川安太郎(三七)方を臨檢した今宮署員が二階の各間で三人の男娼がそれゞゝ學生風の少年を嘲へ込み獵奇の夢を貪つてゐるのを見發見、取調べたところ元尾上玉太郎と稱して女形俳優であつたこの家の主人の西川が自宅に秘密クラブを組織し男娼仲間を集めてグループを作り變態好色の男を媒介し、例へば常に天王寺公園や新世界の映畫館に出入りし、美少年を探しては誘惑し小遣錢等を與へて自室に連れ込み男娼に媒介料を取つてゐたもので、その少年達は殆んど家出少年で彼等變態男娼等のために酷い目に合つてゐたことが判り直ちに西川他一味を検挙し三少年はいつたん同署に保護の上今朝

警戒の刑事に「喝」され、眼が覺めた！

二十六日午後十時頃折柄燈火管制で眞暗闇の天王寺公園内を天王寺署の出淵巡査が巡回してみると植込のあたりにムツクリと妖しい男女の影が浮び出したので近づいて見ると、二十四、五歳位の仇な女と會社員風の若い男とが息詰るやうな恍惚シーンを展開してゐる最中なのでいきなり「コラッ！」と大喝し引捕へて調べると、意外にも夜目に仇な女と見たは通稱竹チャヤンこと住所不定ベニシヤン会員三井行信（二六）＝假名＝同夜闇の公園附近を歩いてゐる際に記竹之助（二三）といふ男娼で、相手の男は東成區生野田島町某會社員三井行信（二六）＝假名＝同夜闇の公園附近を歩いてゐる際に記竹之助に誘はるゝまゝにスッカリ女と思ひ込んでアラレもない醜態を演じてゐたものと判り大目玉を喰はした上釋放した。尙同公園では最近同様の醜行が頻々と行はれてゐるので當局でも風紀上警戒の眼を光らせてゐる。（昭一二、一一、二七夕刊大阪）

秘密室に描く

超グロ繪卷！

令嬢と思つたは意外や男！

變態魔窟擧げらる

二十二日夜十時すぎ新世界公園通を戎署防犯係が風紀検索のた

（昭一二、六、一二夕刊大阪）

カフエの彼女は

なんと變態男

女給の拂底に替玉をつかつた

「ミス春」お目玉頂戴

島之内署では時節柄管内のカフエ、バー等の風紀取締りを一齊に行ふこととなり、十一日午後十一時半頃南區三津寺町ミス・春こと市川定吉方を臨檢したところ、洋装に断髪の派手な服装をした二女給の姿態に不審を抱き兩名を取調べると實は例の女裝の男で、住吉區山王町三丁目石川溝一方に同居中の千寄子こと春木芳雄（二八）、シゲ子こと田中繁夫（二十五）と判つた。二人は同夜女給拂底のため前記市川の依頼を受けミス・春に女給としてお目見得に働いてゐたもので醉客も全く女と信じてゐたと、又道頓堀の盛場附近を流してゐた西成區今池町山岡奈良次郎（二九）他二名の變態男も檢舉した。（昭一二、六、一二夕刊大阪）

十二歳の少女の

貞操を弄そぶ

公園に放心してゐた家出娘

十三日午前一時頃天王寺公園音樂堂附近のベンチに腰かけてゐる妙齡の女にルンベン風の男が何事かを誘ひかけてゐるのを巡回中の戎署員が不審に思ひ取調べると、女は京都市右京區山の内北ノ口井上善吉五女キク子（二一）と言ひ、性來家出癖があるが、同日もフランクと家を出て京阪に乗り所持金を使ひ果して前記の場所で途方に暮れてゐるのを件のルンベンが何事かを企んで話かけて來たものと判明、尙ルンベンは逃走して行方不明。

（昭一三、一、一四大阪日日）

悪徳が絶へず行はれて居るのは紅燈地圖や繁華街です。そこにはあるる種類の悪い人達が巢を張つて居ります。新聞の三面記事を埋めて居るのも此の地帶に於ける出来事が多いのです。地方からの旅行者や見學者や移住者が彼等の餌食となり易いのも此の地帶です。多くの例の中から二三を揚げて特に田舎の友人への報告として注意を喚起したいと思ひます。

告として注意を喚起したいと思ひます。

家出娘を狙ふ

怪ルンベン

警官の姿に吃驚逃走

W.C. の床下から

ニユツと髭の手!!

女給さんタマゲて悲鳴

西宮市今在家町カフエ「おはつ」女給栗田梅子(一九)〔假名〕

が去る十七日午後二時ごろ同家便所で用便中糞壺から跣だらけの男の手がニユツと現はれたので悲鳴を擧げて飛びだしたのでその聲に痴漢はそのまま逃走、右の由を西宮署に届けたが、犯人はルンペン風の男だつたと。(昭一二、一二、二〇夕刊大阪)

新世界の不良

制服の處女を誘惑

言葉巧みに旅館に連れ込む

危機一髪! 警官の手へ

十九日午後十時半頃住吉區山王町二ノ六四八ナフサ旅館二階より女の悲鳴が漏れるので巡回中の今宮署員が踏み込んで見ると、

二階奥四疊半の間で十六、七歳の制服の處女を殴打してゐる若い男を發見、本署に引致取調べた處西成區東田町眞柄壽爲(二十四)女は中河内郡枚岡村會社員室瀬隆春長女府下某高等女學校四年生笑子(一七)〔何れも假名〕で、同日午後三時頃松阪屋に買物に行き歸途新世界日本俱樂部で映畫見物中財布を掏られ途方に暮れてゐた處を前記眞柄が親切さうに誘惑、言葉巧に諸所を連れ歩いた末

松竹映畫劇場の
變態學 生 女學生を狙ふ

一日午後九時頃島之内署中島刑事が浪速區霞町松竹映畫劇場で拘摸警戒中、階下立見席で某大學制服を着た青年が京都府立某高女五年生高山智子(一八)〔假名〕を狙つてゐるのを發見連行したが、この青年は市外某大學豫科二年生山本健二(二〇)〔假名〕といひ常習者と判明したので留置處分にした、尙同劇場は附近が附近とて新世界名物の變態性が早くも出入するので關係各署の防犯係は今から頭を悩ましてゐる。(昭一三、四、三大阪日日)

念の入つた猥行爲者檢舉

新世界方面の映畫館に

出没する袂切り犯人

三日午後八時頃浪速區新世界映畫館敷島俱樂部内で「アレ!」といふ女の悲鳴に觀客は總立ちになつたがその中を脱兎の如く逃げる男を戎署員が發見逮捕した、右は愛媛縣生れ住所不定松村美人(二〇)〔假名〕で同館内で小笠原章二郎の實演見物中浪速區恵美須町四丁目懷爐灰工場女工大内秋子(二一)〔假名〕にY行爲を仕

向けてその上に袂を切つたことが判明したが昨年末來の映畫館内袂切りを同人の犯行と睨み追究中である。

多數の喫茶ガールを

凌辱・賣り飛ばす

南地の不良「轟團」檢舉

島ノ内署では正月以來南方面の喫茶店を専門に荒し廻り果ては多數の喫茶ガールを誘拐、檻禁する不良團があると言ふ風評をきゝ込み、齊藤防犯部長以下防犯刑事總動員で檢舉に躍起となつてゐたがこの程前記不良「轟團」を檢舉した。この不良團は港區市岡元町二丁目一位正次(二三)が團長となり杉本八郎(二三)が副團長となつて輩下六名を擁して手分けして毎夜の如く全市喫茶店に出没、レコード其他裝飾品を搔拂ひその被害六百餘件二千数百圓にも上つてゐるが、その外浪速區河原町一喫茶店五月万女給吉澤美美子(一七)〔假名〕を言葉巧に誘惑前記一位の自宅に檻禁した上全團員で輪姦した上郡山方面の酌婦に百五十圓で賣飛ばして外十數名の喫茶ガールを同様檻禁、輪姦した上酌婦に賣飛ばしてゐるものである。

二、道徳

心が歪みきつてゐる彼氏達の中の一部の人々は、無作法で野卑であるばかりではなく、感謝す可きときにも不平を並べます。貰ふたものである。

前記旅館に連れ込み獸慾を遂げんとしてゐたものと判明今宮署で同様餘罪ある見込みで取調中。(昭一三、二、二二大阪日日)

る家が大掃除のときなどにブイと家を外にして夕方に掃除が終つた頃歸つて来るものがあります。そして先に湯に入り、先に飯を食つて休みます。義理や人情を全然知らないものがあるのです。

仕事のことや其他のことで他人に迷惑を掛けても平氣です。自分勝手なことは此上ないのです。

低級な種類の道徳と申しましたが、以上の様に子供や刑餘者や博奕打の道徳や、因習的な惡徳以外には勝手氣儘な道徳より持ち合はして居りませぬ。悪いことをしたときには謝罪すればよいのです。謝罪すれば何んな悪いことをしても許されるのが彼等ならわしです。「謝つてゐるのに何で悪い?」と一度謝つたものは謝つたことに依つて正義を得たことになります。

刑餘者の道徳と申しましたが、ルン・ベン氏達の三分の一が刑餘者であることから考へても領ける理であります。彼等は警察の留置場へ入れられると必ず前に留置されて居るものに挨拶を致します。一番長く留置された居るもの、一番古いものが監房長になります。刑務所や留置場から出て参りますと仲間や手下のものから金を集めてお祝を致します。彼等は「一社」を組織致します。驚く程封建的な性質のもので、親分には頭が上りませぬ。何んなことを命ぜられても御無理御尤もです。兄貴分や親分の悪事を隠したり、かばうことは此上もなく名譽とされて居ります。間違を起したりして兄貴や親分に殺される様なひどい目に合はせられても之を警察に告げたり、逃げたり等は致しませぬ。彼等は弱い者には何處迄も強いのです。強い者には反抗致しませぬ。命せられたこと

は何んなことでも致します。慘忍な目に合はされても止むを得ない考へて居ります。全く直目的で雷同様です。ルン・ベン氏の中には、仁義以外の道徳を知らない人々があると云ふことが出来ると考へます。

三、宗 教

敬虔と感謝の方面から考へてみますに、感恩報徳といふことはまことに少いのです。宗教はルン・ベンを素通り致します。親兄弟に對してさへ有難く思へない人々が彼等の中にはあるのです。貧乏に生れて來たこと、教育も充分に受けられなかつたことに對して不満があるのです。今日の様な境遇に追ひ込まれたことに對しても神佛に感謝は出來ないのです。「神は人を助けるものであるのに、何故斯んなに苦まねばならないのか?それは神佛がないからだ」と毒つきます。「自分は正直に全精力を出して、朝早くから夜遅くまで眞面目に働いて來たが失敗した。それに両親も死んだ。妻も子も死んだ。何んで自分にばかり總てが斯う辛くなるのか?神! 神や佛にこれでは縋れないではありますか?」と申します「見えない神よりも現在を救つて下さる人が有難いのです。空腹のときが多いので食物を下さる人が神様よりも有難いのです」と申します。

と考へなければならぬのであります。神を思はず、佛を考へなつて行きます。今までの生活を考へても、現在の境遇からしても、感謝は見出しえないのであります。信仰しなければならない理由の發見に苦しむのです。食へなくなると神具や佛具を賣つて食つても大して罰は當りませぬ。神前に備へた鏡餅を古下駄の火で焼いて食つても罰は當りませぬ。落ちてあるのかないのか判然としないものを捨ててあるものと考へて拾つても、又それを金に換へて酒代にしても何ともありませぬ。無茶苦茶をしても罰は當らない。神を拜んでも拜まなくとも少しも變りはありません」と申します。生活に追はれて居る彼等には神を拜むよりも、神前の鏡餅を食ふの方が大切であり有難いのです。

彼等の中の一人は申します。「衣食足つて禮節を知ると謂ひます。坊主は忍辱を説いてくれます。耶穌はヘツブンを教へてくれますが、空腹には苦痛であります」次の句も同様な意味をよく傳へて居ります。

説教もざんざいつきが面白い

四百貳拾名のルン・ベン氏達に信仰の対象を聞いて見ましたところ、僅かに五分の一の八十五名が答へて下さつたのみであります。而もその八十五名中の二名は神佛を全然信仰しないと特に強く調せられました。五分の四の三三七名が無信仰に近い人達である

汚い家も、汚い衣類も何とも思はない。小屋に住んで南京虫と同じで居して居る。神佛に就ても信仰に關しても細民に共通なものがあるのではないか？ ルンペニに顛落する様な人々の心理状態には特殊の定型があるのでないか？」と云ふ人もあります。

北支へ出征した友人から來た手紙に「支那の苦力は内地より總てが低級です。頭髪を長く延して公園や街路を素足で歩き、夜は街路、軒下、樹木の下をねぐらとして居ります。晝間の労働も頭様のものが棒を片手にピシャリ～とやつて居ります。噂に聞く今宮保護所のルンペニ氏達と同じ様に思はれます。」と。然し考へねばならないことは天理教徒は八百萬あると申して居り、眞言宗徒も八百萬あると云はれて居ることであります。十人に一人位の割合でルンペニに顛落するものがあつてもよいことになりますが、天理教徒のルンペニは少いのです。殆んどないのです。新興宗教にもよいところがあるのではないかと思ひます。一向宗の人にはルンペニが多いのはその宗旨に屬する宗教家の活動が鈍い爲であります。それは壇家が多いことと、宗徒に細民が多いからではないかと思ひます。

日蓮上人の偉大さは此の細民の間へ濟度の爲に進出したことにあります。貧乏で充分の教育を受けることも出来ず、無智の爲に生活に追はれて信仰生活にも入れなかつたことが彼等を犯します。

ものがあります。友人が病氣で危篤に陥つて居るのに、病室の隣室でその妻とよからぬことをした爲に、友人が狂ひ死にをしてその靈が黒蛇となつて現はれ、飯を食はうとすると、腹から咽喉に頭を出して飯を食はさないので申します。若いときに金を胡麻化したのを神様が責めに來て、夜は蛇が手足を縛るのですと申します。懺悔をしても、祈禱をしても何としても赦されないのです、と申します。

然しそうした人々の間にも極めて篤信な人もあつて、四方拜を毎朝致して居ります。又中には「現在の生活は慘なものではあるが、それでも斯うして無事に生活が出来るのは上は天皇陛下、神佛の御加護によるのです」と感謝して居るものもあります。少しでも皇國の爲に、神國の爲に御恩報じが出來ればと願つて居るものもあるのです。心強い限りです。

彼等にも宗教心が心の奥深く潛在して居るのです。ですから彼等に宗教心が覺醒する様に環境を改善して、生活を樂み得る様にすることが必要だと考へます。要するに彼等には現在の生活が大切であつて、如何にして生命を保つやに奔命になつてゐるのですから、神佛を考へる餘裕がないのです。或は！ラスキンの言葉を

罪者にしたり、ルンペニに顛落せしめたりするのではないかと思ひます。勿論本人の先天的素質によるものもありませうが、小さいときから両親にはなれて、親類を轉々としたもの、片親が死亡したり、逃走したりして、繼父母の出來た人達は自然と心が歪んで来て、自暴自棄となり、ルンペニに顛落するものが出來るのではないかと思ひます。それと同様に地方で理由なき差別的生活を甘受して來た人々にも同様な理由でルンペニに顛落するものがないとは云へないと思ひます。

故なき苦痛を舐めねばならないことに對して反抗心と破壊心と憤激が沸りは致しますが、敬虔の情と感謝の情は起つては参りませぬ。彼等の境遇は彼等を神から、佛から遠退けてゐるのです。某保護施設で神殿と佛壇を安置して、毎日早朝に神様を、夕方に佛様を禮拜することにしたのです。ところが何故神様を拜まなければならぬのか、と言つたものがあるのです。ところが佛様は朝から燈明を獻げて禮拜して居るものがあるのです。家によると佛壇はあるが神殿のない家があります。若し現在の境遇に於て宗教心と申しますか、宗教に關係のあるものがあると致しまするならば、それは戎、大黒、稻荷、聖天等の福神を祀るものがある位だと思います。大部分のものに信仰心はないのです。中には過去に犯した罪の爲に、苦みに苦み抜いて、神や佛に救ひを求めて居る

借りて言へば「神や佛のことを口にしないだけ、それだけ敬虔であり、それだけ神の意に叶うた篤信家」なのかも知れませぬ。又熊澤番山の言葉にある様に「鬼神の鬼神たる德を知るときは、心至誠、純一ならでは拜しがたく、身潔白ならでは近づきがたく、服盛んならでは祭がたく、是故におのづから遠かるなり、遠かるは尊敬の至れる故なり。後世の人神社に詣ぶづる事しげきは、鬼神の徳を知らざる故なり。」と同様に、服盛らざる彼氏達が神から遠かるは最も神を尊ぶものであるかも知れませぬ。勿體ないと言つて拜まないものもあり、教育勅語の奉唱でも勿體ないと言つて近づかないものがあります。

弘法大師とルンペニ

ルンペニ氏の家の宗旨には色々あるが、巡禮や乞食に何を信仰して居るのかと尋ねると、弘法大師ですと答へるものが大部分です。宗旨の如何にかわらず「南無大師遍淨金剛」と稱へることに依つて生活を維持することが出来る爲であると考へます。斯んなにして大師は弘法に取られ、どん底生活者は弘法でなくては夜が明けず、弘法でなくては日が暮れないのです。

も斯んなにして日本臣民として生を樂むことの出來るのは、上は天皇陛下及神佛の御加護に依ると、先づ陛下に感謝して居るのも事實であります。他人から良いことゝ教へられて、それが自分でになし得る範圍内のものであれば實行に移すのも事實であります。今宮保護所の宿泊者達が北島顯家卿の墓掃除に行つたり、「阿部野神社の境内の除草を行つたりするのも事實であります。又一所で朝禮のときに訓話を聞いたり、懺悔話をしたりする外教育勅語の齊唱、國歌の合唱をなし、又伊勢神宮及宮城の遙拜をなしつたるものも事實であります。

現在止宿中の一六〇名が殆んど全部貯金して報國の念に燃え、或る者は愛國公債を購つて居るのも事實であります。今年の六月は雨が降つたから飲食者も多かつたであらうと心配して下さる方も澤山ありました。非常時に目醒めた彼氏達には飲食者は少く、初てルンペンに顛落して來た人や病人にのみあつただけであります。國民精神總動員の標語を募集致しましたところ

御勅語無言の行で読みませう

君が代を歌う心でつとめさせう
といふがありました。彼氏達の心は今は支那の空にあります。軍用機獻納資金への獻金も彼氏達の時局認識の一の例であります。

寒風よりも暖い太陽が氷を解かすのに有効であると考へます。
溺れかけてゐる人に此上海水を與へる必要はありません。海水から引き上げて海水を吐かし人工呼吸を施して、火を與へ、衣類を替へてやる必要があると考へます。

譴責や體罰や名譽罰も教化上の一の手段に相違はないが、愛情を阻害し易く、用ひるに從つて効力を減ずる消極的な特にルンペン氏達には効果の少い、最も拙劣な方法であると考へます。

尙こゝで一言附加しなければならないことは、不況時代の彼氏達と好況時代の彼氏達の心的状態には非常な差異のあることであります。惡徳は不況時代に多く、善行は好況時代に多いのであります。

手押車に唉いた友情

ひと時の朋友の病魔に

胸巻から敷ひの虎の子

大阪東成區片江町の産業道路を一日の正午すぎ同區中本町西谷

健治方に止宿する飯野駒一(三二)と鈴木政男(三五)さんの二人の拾ひ屋が仲よく手押車を揃へて洗してゐたが、鈴木が突然腹痛を訴へて苦悶しだしたので飯野は病人を手押車に乗せて附近の大東病院に運び込んだところ、急性盲腸炎で直に手術を受けねばならぬと診斷されたが、鈴木は一錢の蓄へもなく朝鮮で生れたといふだけで本籍も本名も知らぬ天涯孤獨の身であることを知つた飯野

は、僅か數日前ふとしたことから同人と知り合つたばかりの間であつたが、その場で平素虎の子のやうに大切に肌身離さずつけてゐた胸巻から百二十圓の郵便貯金通帳と印鑑を小田院長の前にさ

これ等のことを考へて見ましても、如何にルンペン氏達が環境を、時勢を、自分自身を認識してゐるか、判然と致します。從つて彼氏達が今日まで「如何に慈悲心を掛けてやつても、物質的に常人と變らない衣食住を與へても、眞人間にはなれない、救はれ難い、生存競走に負けた落伍者であり、人間らしい生活の嫌な社會の殘滓であり、腐朽物である」として捨てられて顧みられなかつたことは、捨てられた人々にも大なる責任があるが、捨てた人も誤りがないとは言へないと考へます。互に正しい認識と理解に傾けるところがあり、教育の効果に對する大なる誤解があつたのではないかと考へます。人々は申します。「ルンペンは刑務所の如きところに強制收容して之を監置し、怠惰なものには強制労働を課す可し」と、成程そうした極端な待遇を甘受させてもよさうなものが少しあるが居ることに間違はありません。ですから強制收容施設と強制労働制度の必要を否定は致しませぬ。然し私達は茨の障壁や笞を用意する暇があれば香氣馥郁たる愛の花園を建築する必要があるのでないかと考へます。海水に落ちて溺れかけてゐる人に此上海水を與へる必要はありません。海水から引き上げて海水を吐かし人工呼吸を施して、火を與へ、衣類を替へてやる必要があると考へます。

し出して「先生、俺の全財産だ、これを抵當におきますからどうか友達を助けてやつて下さい」と目に涙さへ浮べて懇願する。この拾ひ屋の友を思ふ情愛に強く心を打たれた同院長は、手術の實費二十圓で約十日間の入院の世話一切を引受けやうと快諾した。そこへ急を聞いて駆けつけてきた親方の西谷健治さんがこの友愛に感激して「費用の半分は俺が出さう」とさつそく衣類や道具類まで入質して十圓を用達てた。院長と親方の情に喜んだ飯野は残りの十圓は病人が退院するまで十日の間にどうしても俺が支拂ふのだと翌朝からは日ごろより二時間も早く四時頃から起きて一日中仕事をして、歸り道には毎日のやうにリンゴや美しい草花などを携へて病院を訪れ、手術後快方に向つてゐる友人のことをわがことのやうに喜んで「金の心配はいらぬから快くなつて、また手押車をならべて働きに行かうぜ」と元氣づけてゐるのには院長以下同病院の人たちを感心させてゐる。

ルンペン群の獻金

赤誠の一錢積つて四圓六拾四錢を

阿部野署へ醸出す

二十八日午前十時阿部野署を訪れた一ルンペンが「私どもの汗の結晶です、國防獻金にして下さい」と一錢銅貨ばかりで四圓六拾四錢を差出した。右は住吉區松田町大谷高女西方の涯下に集喰

フルンペン拾ひ屋大山吾作（三二）君で、古新聞や立看板で非常時認識を深め仲間が醵金して右の獻金をなしたものである。

（昭一三、六、二九大阪日日）

徵兵令違反、逃亡罪等の陸軍刑法に依つて處斷された男が、事變發生以來常に努力を續け軍帽軍靴其他一切をとゝへ應召の準備をしてゐるところへ召集があり喜び勇んで無事出征した。

貧者の一燈

老ルンペンから慰問金

十六日午前十時川口署受付へルンペン風の男が訪れて「些少ですが満洲の兵隊さんあげて下さい」と金壹圓を差出した。右は西區江ノ子島上町雜喫場橋下に居住の拾ひ屋津田裕和（五一）といふ老ルンペンで、一月前から脳を患ひ赤十字病院に通つてゐたが川口署員の情で共濟會病院に入院したが豫定よりも早く全快し、昨今では一日五十錢前後の收入があるので小遣錢を節約して持参したものである。（昭一二、八、一六夕刊大阪）

貧しけれど心清し

どん底にあへぐ妻子四人

路傍の廿圓の誘惑に勝つ

二十八日午後五時ごろ大阪蘆原署へよれくの縞木綿を着た女が幼い子供を三人もつれて「二十圓拾ひました」と届出た。高田

かつてルンペンにまで落ちた苦しい経験の持主です、どうか名前だけは……／＼と逃げるやうに立ち去つたので同署では此無名紳士の篤志に感激、ルンペン達に施與することとなつた。

（昭一二、五、二九夕刊大阪）

嘗てのルンペンが

昔友達に惠む十圓

貧者の一燈・今宮署（續々）

廿三日午前十時頃今宮署金ヶ崎出張所に塩井部長を訪れた厚司の労働者風の男が懷中から金十圓を差出し「私も曾てはルンペンに落ち御署の御厄介になつた者です。お正月が近付いても何の喜びも持たない食ふや食はずの昔友達に分けて下さい」と名も告げずに立ち去らうとしたので、強ひて問ひ質したが松本幸吉（三一）とのみ、まだ一定の住所もない自由労働者ですと云ひ残して立去つた。尙同所には斯うした貧者の一燈からなる美はしい歳末義金が既に五百圓に達したので、近く管内千五百に餘るルンペン達に分與する事となつた。（昭一二、一二、二三夕刊大阪）

ルンペン君の美舉

大阪市立今宮保護所のルンペン君二十名は、大楠公六百年祭を記念して十八日午後二時半、そば降る雨のなかを大楠公とともに南朝守護の第一線に活躍した忠臣北畠顯家卿の墓所に住吉區王子

部長が事情を聞くと、浪速區蘆原町上村十龜さん（三三）で新田べルトの臨時工だつた夫が本月はじめ妻子四人を残して急病で死んでしまひ、香料二十五圓をもつたが貯へとてもなく、その日の生活にも差支へるやうな窮乏のドン底に叩きこまれてしまつたので、健氣にも職をもとめて立ち上ることにしたもの、末っ子の乳のみ兒が足手まといになるので同日天下茶屋の託児所へ預けに行つたが満三歳になつてゐないからと断られ仕方なく帰宅すべく高野線電車に乗り蘆原驛に下車したところ、貧しさに絶望してゐる同女を誘惑するかのやうにひら／＼と路上に舞ひあがつたはだかの十圓札二枚！だが正直なかの女は早速届出たのである。これを聞いた署員はいづれも感激した、そして木元、岸野兩方面委員らや警察の人々がどうしてもこの正直な十龜さんを助けようとして遂にこの氣の毒な一家に温かい救ひの手を差しのべることになった。（昭一二、六、二九大朝）

無名洋服紳士

ルンペンに三十圓贈る

廿九日午前十一時頃警署受付を訪れた三十五、六歳霜降春廣の紳士が懷中からハトロン封筒を差出し「些少ですが管内のルンペンに分與して下さい」と告げ立去らうとしたが、中を改めると現金三十圓が封入されてあつたので、後を追ひ氏名を質すと「僕も

町三丁目を清掃し、終つて来る二十二日墓前祭が執行される廟の墓所に詣で、雨に濡れながら墓碑、玉垣をはじめ壁域内を見達へるやうにきれいにした。（昭一〇、五、一九大朝）

人生の裏街道に

見よこの心意氣

老ルンペンの獻金

支那事變勃發以來陸海軍に獻金を續けてゐる感心な老ルンペンがある。大阪住吉區平野流町大阪女子師範學校東の畠のまん中に小屋をつくつて住んでゐる黒田勝彌（六七）さんがそれで、事變が起るやさかな酒をビタリとやめ、貰つた一錢、二錢を貯めて毎月二、三圓づゝ平野署に持參してゐたもので、今ではもう二十圓に達してゐる。濱松市の魚問屋の末つ子に生れたが商賣の失敗から兩親は毒をのんで悲惨な最期を遂げ、六人兄弟のうち兄四人は西南の役に行方不明となり、後に残された身頼りなき姉と自分は死場所を求めて東と西に袂をわかつたのが明治二十二年、この爺さんが十六歳のときだつた、大阪に来て氷賣りをやつたこともあるといふ、「どうしても勝つて貰はねばなりません、戰地の兵隊さん」が元氣を出してくれるやうに、お酒代として僅かだが獻金して居ります」とは爺さんの意氣込みだ。（昭一三、六、九大朝）

今宮保護所の諸君

大阪市立今宮保護所に入所してゐるルンペん百六十名は、わが

海軍機の勇猛な活躍ぶりに感謝する意味で、一人残らず海軍へ献金しようと申合せ、一錢、二錢と尊い献金を行つて十圓六十二錢

になつたので、代表者として先引の久保田繁君と人夫の淺井金平

君が八日午後八時大阪海軍監督事務所を訪れ、海軍國防献金、

海軍恤兵金、および官役人夫の慰問金にそれべ三圓づつ計九圓

を寄託した、なほ残りの一圓六十二錢で来る十五日戰歿將兵のた

めさゝやかながら心からの慰靈祭を行ふ(昭一三、八、九大朝)

俺らの汗で築け

貯金の金字塔

スラムにあがる歓聲

大阪釜ヶ崎の市立今宮保護所宿泊のチンドンヤ、灰買ひ、バタヤなど百五十二名は昨年十一月一日三錢以上の貯金を申合せ、一人の責任額八圓を目標に乏しい收入の中から貯金をつづけてゐるが七月末の調べによると、汗の結晶が實に千二百九圓拾六錢に達し、責任額八圓を見事に突破「御奉公が叶へるゾ!」と一同歓聲をあげてゐる。その内譯は百圓以上のもの二名、十圓以上のもの

狎れるな・慣らせ

辻村又男

相當の矛盾や純ならざるもの、醜い現實暴露さへ見えて來、強烈な傳播力をもつ惡性バチ尔斯の跳梁に強い刺戟をうけた。

明治天皇御製「よきをとり悪しきをすてゝ外國に劣らぬ國となすよしもかな」とある如く洵にさうであつたのである。眞に惡しきを夙く棄てなければならぬのであつたのである。實は「日露戰役」の後かおそらく「世界大戰」の直後に「應は省みて彼我得失の再検討をなすべきであつたのである。同じく御製「いくそたびかき濁しても澄みかへる水や皇國の姿なるらむ」寔にさうであつた。濁り水ははやく澄まさなければならぬのであつたのである。

時に孟子が孔子を指して「聖の時なる者」と評し、日蓮は「況や佛法を修業せんには時を糾さざるべしや」と說いて機より時の力を提唱したものであるが、其時來つて靜かに我が先進として久しく拜跪してゐたところを凝視した眼を轉じて内を省みると、

全く脚下照顧を忘れ果てゝゐたのであつた。

時孟子が孔子を指して「聖の時なる者」と評し、日蓮は「況

二十名、一圓以上二十四名、一圓以下百四名で、そのうち荷車の先曳きをやつてゐる久保田繁翁さん(六五)のごときはこれまでに陸軍への献金をはじめ、本社軍用機献納資金などに無名で百圓以上を献金したといふ隠徳家である。なほ全員は八圓平均に満足せずさらに一枚以上の愛國公債が買へるやう「貯金貳拾圓」成就を誓ひ合つた。(昭一三、八、三大朝)

町内會組織の現代的意義 奥井復太郎 一
物資調整管理と失業問題 遊佐敏彦 九

戦時戦後の社會事業 杉山元治郎 三七
伊太利に於ける傷痍軍人強制雇傭制度 山本高雄 三

失明軍人とその社會對策 岩橋武夫 四二

生産人と消費人 平實 八

深まりゆく跛行救護とその對策 米谷豊 三

獨人獨語 増田幸一 一
日支事變感 余田忠吾 一
大阪の農業と農村 松村勝治郎 一
事變下の浮浪者 草間八十雄 一
ルンペング雜考(三) 郡昇作 一
狎れるな慣らせ 辻村又男 一
我國に於ける勤労奉仕の運動 山崎孝一 一

報情生厚阪大

弘濟會「希望舍」竣工 二三
母子ホーム「夙愛寮」ひらく 二四
社會事業の輝く大陸進出 二四
健康滿洲開拓を目指す三女性 二四
我國に於ける勤労奉仕の運動 二四
家庭勤労婦人厚生會 二五
國民健康保險法實施事務打合會 二五
保護少年ら聖地に感激の作業 二五
社會事業會館「友の會」 二五

別紙附錄 大阪銃後ニユース

催にかかる社会事業事務從事者
講習會の講習終了生を以て組織
し本廳關係主事及會館關係職員

を特別會員に講習會講師を顧問
に推舉す

三、本會の事務所を大阪府社會事
業會館に置く

四、本會は大阪府下に於ける會員
相互の親睦修養を圖り併せて公
私社會事業團體の連絡發展に資
するものとす

五、本會は左の事業を行ふ

研究會、講習會、修養會、慰安會

六、本會に左の役員を置く
會長 一名、常任幹事 二名

七、會長は本館長を推戴す
常任幹事及幹事は會員及本會館
保員中より會長之を委嘱す

八、會長は本會を代表し會務を總

理す
九、常任幹事は會長の命を受け會
務を掌理す

幹事は常任幹事を輔佐し庶務に
從事す

十、本會員たる常任幹事及幹事の
任期は一ヶ年とす

十一、本會員は會費として年額壹
圓を納付するものとす

十二、本會は會費、寄附金其他の
收入を以て維持するものとす

十三、本會則は出席會員過半數の
賛成を得るにあらざれば變更す

ることを得ず

會員

荒川健三、岩田徳子、石井秀男、
井上房子、池田正男、岩橋豊、井
上正武、岩崎乾、宇津木靜男、
小川信一、岡田茂、桶谷麟太郎、
小川忠子、北野フミ子、國廣信保
久保操、佐々木二男、潮田清、志
波榮吉、田中公江、高井幸治郎、
遠田彌壯雄、長澤俊二、長田道穂
中尾アヤ子、西村徹、濱田巖、林

澤重雄

▼奥井復太郎氏、慶大教授、遊佐
敏彦氏、三井報恩會調査課長、杉

山元治郎氏、代議士、山本高雄氏

厚生省勞働局屬、岩橋武夫氏、

大阪盲人協會長、平實氏、大阪商

大經濟研究所研究員、米谷豊一氏、

大阪市立扇町產院長、松村勝治

郎氏、協調會大阪支所長、草間八

十雄氏、東京市嘱託、郡昇作氏、

大阪市立今宮保護所主任、辻村又

男氏、元大朝記者、山崎孝一氏、

札幌市北潮會

松枝、羽田孝義、樋口謹一、廣藤
勲司、備前雄三郎、藤原重藏、本
城康平、堀切利夫、牧キヨ、南武

社會事業研究
(毎月一回一日發行)

定一部 金五拾錢 廣告料

半ヶ月金參圓 金貳拾圓均一

價壹ヶ月金五圓

(大正二年八月二十七日)

第三種郵便物認可

昭和十三年九月一日發行

(毎月二十八日納本)

大阪市住吉區篠木町一二番地

大阪市北區瀬崎町一八番地

印刷人林 大阪出 版 節

電話北五一五五番

印刷所 大阪

發行人 大津守 陸太郎

編輯兼

大阪市天王寺區伶人町

大阪府社會事業會館内

發行所 大阪府社會事業聯盟

(電話)天王寺六三七五番

堺筋口座大阪二二六〇八番

母子栄養食堂に開する報告書

頒價實費
金七十五錢

母子栄養食堂に開する報告書

頒價實費

金七十五錢

本書は、大阪府社會事業聯盟が、昭和九年秋の關西風水害の罹災による妊娠婦及び小兒の栄養障害恢復を目的として昭和十年四月より二ヶ年、大阪・堺兩市内に開設した四母子栄養食堂の實施成績報告書であるが、計畫當初からこの事業に指導的援助を與へ親く補給者の栄養状態を觀察した大阪市立扇町產院長醫學博士余田忠吾、大阪市立衛生試驗所技師茶珍俊夫、四天王寺施藥療病院醫長醫學博士村田定諸氏の執筆になる、各専門分野に立つ理論的文獻がどの家庭にもその日から應用できるやう平易に、併せ掲げられたる點正に栄養讀本とも言ふべきである。

戰時下において食品衛生の合理化が要請される今日、當時關係事業界にセンセイションを惹起したこの栄養食堂の驚異的諸記録が一巻の書となつて上梓されたことは洵に意義深く、ここにこれを江湖に推奨する。

榮養食の獻立

附表(主要食品の酸度とアルカリ度ほか三)
榮養食堂に就て
榮養の常識(第一章 何の爲めに食物を食べるか、第二章 榮養素の種類とその作用、第三章 榮養素概說 第四章 保健食と獻立、第五章 料理と衛生、第六章 子供の健康と食物)
醫者の立場より見たる栄養食堂の成績